

寒冷な北方隣国と北大との熱い関係

●小俣 友輝、田中 晋吾（北海道大学 創成研究機構 URA ステーション）

要約

地球環境の激変に呼応して、世界の学術界、経済界等において様々な動きが見え始めている。北海道がロシア極東と経済的な結びつきを深めつつある状況と平行して、北大はロシア極東・北東の数大学と教育の絆を構築しつつある。共同研究等で培った当該地域の分野横断的な実績を次世代へつなぐ取り組みの片鱗をご紹介します。

はじめに

「研究力の強化」は昨今の日本の大学にとって非常に重要な課題として認識されている。自大学の世界における位置づけ、共同研究／教育実績、研究／教育力のこれまでと現在の分析を行い、大学の今後10年、20年の方向性と照らし合わせた上で、重点化する研究分野やテーマを選定し実行する。有能な研究者の個人プレイにより支えられて来た「大学の研究力」は、様々な壁を越えてコラボレートする新しいフェーズに移行しつつある。特に北海道大学では、これまで培って来た**北方隣国との共同研究／教育**を緩やかに束ね、より強く強いパイプを形成する流れを形成しつつある。以下にその一部である、ロシア極東・北東5大学との間で構築されつつある教育プログラムについて報告する。

北海道大学の強み

これまで本学では、主に低温科学研究所や環境科学院を筆頭とした理学学科・学院、および文系のスラブ・ユーラシア研究センターや文学研究科において、北ユーラシアをフィールドとした研究が行われている（右図参照）。「北ユーラシア」領域はあえて曖昧に設定しており、広く緩やかに学内のリソースが集うネットワークを想定している。学内15部局約60名の研究者等が賛同・加盟する「北ユーラシア研究会」においては、北欧・東欧・ロシアから韓国も含む広域が関心領域となっている。

現在、情報交換システムである北ユーラシア研究会を発展させ、本学や国内における北方圏の研究教育機関等との国際連携や北方圏研究／教育マネジメント・企画立案を行う「北大北方圏研究室（仮）」を準備中である。

北海道大学の北ユーラシアにおける研究フィールド

(2014年3月現在)



大学の世界展会力強化事業（相手国：ロシア）

かねてより本学と深い交流のあったロシア極東の5大学（極東連邦大学、北東連邦大学、イルクーツク国立大学、サハリン国立大学、太平洋国立大学）とともに、「環境評価」「文化的多様性」「土壌と生産」「地域資源開発」「防災管理」の5分野において、単位互換に関する質の保証を伴った交換留学を行うプログラムを構想し申請した。本学からの参加部局は環境科学院、文学研究科、農学研究院、工学研究院、理学研究院である。申請チームは各部局教員、本学国際本部専門教員およびURAにより構成された。

目下特に修士課程における教育システムを重点的に整備中のロシアにとっては日本のシステムを参考にできる絶好の機会である。お互いのメリットを取り、最大限に有効なプログラムとなることが期待されている。



今後の目標

- 北大北方圏研究室（仮）の理想型における設置
- 例えば対ロシアの文脈で、コラボレーションを望む研究者の数とその希望度合いを網羅的に把握していきたい。→速やかな研究プロジェクト立案
- 劇的な地球環境変化の一端でもある北極域の動きに対して何が出来るのか or できないのか、常に思いを巡らせていきたい。

今後お付き合いいただきたい方

- 北方圏に関する企画立案をご一緒いただける方。
 - 国連に関係あるお仕事を一緒いただける方。
 - 常識を知り常識に囚われない酒好きの方。
- （連絡先：y-komata@cris.hokudai.ac.jp）